

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号 (0172902678), 法人名 (社会福祉法人友和会), 事業所名 (グループホーム きらら), 所在地 (旭川市東光17条8丁目1-10), 自己評価作成日 (令和元年7月22日), 評価結果市町村受理日 (令和元年9月9日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気を大事にしています。いつも入居者さんを見守り、困りごと、分からないことがあれば直ぐにお話できる環境に心がけています。ご家族の方が来た時は、日々の様子をお話しし、協力を受けながら支援を行っています。食事は全て職員が作り、主婦ならではの感性で上手に味付けをしています。体調がすぐれない時は無理せず、時間や献立にこだわらず、なるべく食べたい時に食べたい物を提供し、調理法を工夫したり、代替え品を用意しています。美味しいものを食べられる喜びが体調の改善につながると思っています。飲み込みが難しくなってきた方でも、出来上がったものをただミキサーにかけるのではなく、美味しく食べられるように日々研究しています。祝日はお赤飯を炊き、お彼岸や、節分にはできる方に手伝って頂きおはぎ、恵方巻き作りをして、食事でも季節が感じられるようにしています。誕生日には職員がケーキを焼き、希望の献立にして、いくつになっても嬉しいと思えるお誕生会にしています。毎朝ラジオ体操と簡単な手足の運動、九九や早口言葉も行い、夏の天気の良い日は近隣の公園に散歩に出かけ、散歩に行けない時は、かるたやゲーム、百人一首などを行っています。夕食前にも簡単な手足の体操と、食事の飲み込みが良くなるよう口腔体操等も行い、気分転換と体力の維持に努めています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL (http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action kouhyou_detail 022_kihon=true&JigyosyoCd=0172902678-00&ServiceCd=320)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和元年8月20日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は市内中心部から距離を置いた郊外の住宅地にあり、周辺は新興の住宅街が軒を連ね静かな佇まいで、また緑地や畑等々の自然も残された、心地よい環境下に立地している。同一敷地内には同法人が事業展開するデイサービス事業所や生活支援ハウスが建てられ、同一法人として様々な協力体制で利用者の日々の生活を支えている。建物は平屋で、9人のお年寄りが落ち着いて過ごすのに見合った外装で、周囲に溶け込んだ作りになっている。当事業所は9人1ユニットの特性を活かし、利用者一人ひとりの希望に沿ったサービスに努めており、母体法人のバスを使つてのドライブや近隣への散歩、買い物といった外出等に力点を置いて支援し、好評を得ながら実施している。また地域との交流も活発に行っており、廃品回収への協力や町内清掃に参加する事以外にも、近所の保育園児の来訪や他法人の介護事業所からの運営推進会議への定期的参加、高校や専門学校からの実習生の受け入れ、歌や踊り等の各種ボランティアの協力体制の維持等、家庭的雰囲気を大切にしながら、地域的な役割にも力を発揮している事業所といえる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Table with 4 columns: 項目 (Description), 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目 (Description), 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念「愛」「希望」「感謝」を掲示し、職員全員が意識共有し、理念に基づいた支援を心掛けています。	理念は事業所内に掲示し、利用者や家族、職員も含め当事業所に関わる全員に示すことで、理念の「愛」「希望」「感謝」を共有し、実践の場で活かせるように取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の保育園の子供達が、年に一度遊びに来て一緒にゲームを楽しんでいます。夏は近くの公園に散歩に出かけたり、地域のお祭りに見学に行き楽しませてもらっています。毎月の廃品回収に参加しています。	地域との交流は廃品回収への協力や清掃行事参加を通じて維持されており、近所の保育園児の来訪や各種のボランティアの受け入れ、専門学校の実習体験等々と積極的な姿勢で取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して参加された地域やご家族、見学に来られた方には認知症の人の理解、支援の方法を分かりやすく伝えています。9月には認知症サポーター講座のステップアップ講座として地域の方のボランティアを受け入れる予定です。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議場所はいつもホールで行い、実際に日々の様子を見てもらいながら行っています。日常の報告や取り組みを話し、頂いた助言は実践できるように努めています。	包括、地域代表や家族、地域内の他事業所等の各層の出席で定期的に開催しており、議事内容も行事報告に留まらず、事業所内での事故の報告も行い、事業所への理解と認知症の啓蒙に努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日常業務で、分からない事があれば指導監査課に連絡しています。ご家族間との問題が生じた時なども相談ののってもらっています。	行政の窓口や包括センターとは、日常的に情報交換を行っており、制度の疑似解釈や空室情報まで積極的にを行い、信頼できる関係性を維持している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束が入居者に及ぼす影響を理解し、拘束を行わないケアに努めていますが、危険回避のため必要と思われる場合は、ご家族と相談し行う場合もあります。日中は玄関の施錠はせず、センサーが鳴りすぐに対応できるようにしています。	拘束廃止適正化委員会を3ヶ月に一度の頻度で開催し、自分たちのケアについて検討し毎月のカンファレンスで確認している。また職員に拘束に関するアンケートを実施し、実践的な事例を検証しながら拘束も抑制も無縁な介護に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者さんにかかる言葉は常に気をつけるように、申し送りやカンファレンスで話し合い、身体に関わる虐待だけでなく、職員で理解し共有しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の研修に参加し、資料をもとに職員で学ぶ機会を持つようになっています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、契約書・重要事項説明書等には時間をかけて説明し、不明な点があればいつでも対応するようになっています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者のみでなく、職員もご家族とコミュニケーションを図り、来訪時には様子を伝え意見や要望を聞き、職員全員で共有できるようにしています。時々ご家族の方々の様子も聞きコミュニケーションをとっています。	家族の来所時に様子を伝えたり、意見や要望を聞いたりしており、また運営推進会議の議事録に利用者の様子を掲載し、2ヶ月ごとに家族に送っている。	利用者の事業所での生活の様子は、家族が一番知りたいところと思われ、現状の「2カ月間の様子」欄の充実を図り、多くの情報が家族宅に届くよう、より一層の努力を期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回ミーティングを行い、その時以外でも何かあれば朝の申し送りの時間を活用し意見交換を行い、よりよい運営が出来るようにしています。連絡ノートを使用し、共有しています。	毎月のカンファレンスの席上や、毎日の申し送り、常備している連絡ノートの活用等々で意思疎通はスムーズで、少人数である1ユニットの特性を活かし、家族的な親密性で意見交換が日々行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員は主婦が多いので、仕事と家庭の両立ができるように配慮し、休日や就労時間は希望を聞き、取り入れるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は交代で参加できるようにシフトを調節し、研修内容も全員で見て共有しています。支援の仕方は、その時々で変わることも多いので、その都度その場面での介護技術や知識を学び、実践できるように努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修会、包括センター主催の研修会にはできるだけ参加し、情報交換、他のホーム取り組み等を参考にサービス品質の向上につながる様に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めています。	入居前の面接時に本人と家族様の要望等の聞き取りを行い、何を望んでいるのか、現状を把握し、環境の変化による不安を少しでも軽減できるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居する前に見学に来ていただき、ご家族の介護に対する要望を聞くようにしています。また、施設の方針や認知症の施設の良いところをお話し、その場の雰囲気を感じてもらい理解納得した上で決めてもらう様にしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	計画作成担当者だけでなく、すべての職員が本人が必要としている支援は何か、情報収集を行い意見交換し、より良いサービスができるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ひとつの大きな家族として、職員は家庭の事、子育ての事などで相談をすると、一緒に考えて下さり助けられています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の存在が一番大きいと言う事を職員全員が理解し家族の訪問時には、入居者の近況等を伝え、家族との情報の共有は大切にしています。電話をしたいと訴えがあれば、いつでもかけられるように家族から了解を貰っています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人知人の面会は本人にとってうれしいことなので、大いに受け入れています。外出行事でのバスの移動時に、なじみの場所を通り話をしています。	外出行事で馴染みの場所を訪れたり、好きな食べ物を食事に取り入れたり、また地区でのお祭りや出かけたスーパー等で友人や知人との出会いを楽しんだり、様々な関係が途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居間には一人ひとりの居場所があり、入居者のほとんどが居間でテレビを見たり、職員を交え話をして過ごしています。レクリエーションの時には入居者同士で「頑張って」と声をかけてくれます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族が安心して介護を受ける事ができるように、退去後でも、連絡を頂ければいつでも情報提供や相談に応じることができるようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や表情からいつもどのようなことを望んでいるのかを観察するように心がけています。職員が感じた思いを共有できるように、ミーティング等で話しています。	日々の生活支援の中から、意向や希望、思いや願いを汲み取り、職員間でカンファレンス等により共有しながら、本人本位の生活となるように臨んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人と会話の中で情報を得ることが多いですが、本人から得ることが難しい時は家族から聞いています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタルチェックを行い、日々変化する体調、心身状態などを見極めていきます。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活の中で本人、家族の思いを反映できるように心がけ、計画時には本人、家族の希望・要望、主治医からの指導・助言をカンファレンスを通じ、職員の意見・情報を元に現状に即した介護計画を作成しています。	毎月カンファレンスを行い、3ヶ月事のモニタリングを経ながら介護計画を実践している。計画作成には家族の希望や医療面での注意、職員が感じる日々の問題点を考慮し、また病気等での急変はその場に応じて検討し、常に現実に即したプランとなるように取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画をいつでも見られるように、記録版に貼り、計画内容に沿った介護をし記録しています。職員間での些細な情報・連絡も、連絡ノートに書き毎朝見ることにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人と、家族の状況も変化があり、その時のニーズについて、職員、家族で話し合い決めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩では、近隣の保育園児や、遊びに来ている親子、犬の散歩をしている方々とふれあいを持っていきます。同じ法人内の催し物に、希望者がいれば参加させてもらっています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は既往歴などを考慮し、本人・家族と相談して決めています。かかりつけ医は2週間に一度の往診と、緊急の場合でも連絡し、指示を仰ぎ、場合によっては受診するようにしています。	利用者のほとんどは協力医の2週に1度の往診体制で臨んでおり、緊急時も医師の指示や受診で対応し、日々適切な医療体制で利用者の安全を確保している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の配置はしていませんが、協力医療機関から週に一度看護師の訪問があり身体状況、体の変化を話し受診の必要性や対応の相談をしています。必要があれば、医師と連絡を取り指示を仰ぐことが出来るようにしています。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院になった場合は医療機関への情報提供や入院中の様子や退院についての話し合い、認知症の進行を予防する為に、早期退院に向けて情報交換を行うようにしています。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居契約説明時に一度取りの話をし、家族の意向を聞いています。家族の協力が大切であることを十分に説明し、納得と協力が得られるようにしています。状態の変化に応じて、方針を変えていくことができることも説明しています。	看取り介護については、最期まで利用者や家族の意向に沿う体制で臨んでおり、契約時に指針を文書で説明し同意を得ている。また、変更はいつでも可能である旨も伝え、状態に応じて話し合いながら支援できるよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には行ってないが、入居者の状態に合わせて、急変や事故の危険性がある場合は、前もって対応の方法を検討しています。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年に2回行っています。隣接する支援ハウスや、向かい家の方には協力を得られるようになっています。食料などの備蓄も少量ですが行っています。	避難訓練は消防署の指導下により、隣接するデイサービスや生活支援ハウスと合同で行っている。また備蓄食料も確保され、近々には発電機の購入も予定し、近隣住民からの協力申し出もあるなど、安心できる防災対策に取り組んでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に人生の先輩であることを頭に入れ、自尊心を損なわないように、声かけには気をつけています。特に排泄の事等は耳元で話し、プライバシーを侵害しないようにしています。	接遇は介護の基本であることを常に意識して介護に臨み、特に排泄誘導や入浴時等々で尊厳を損なっていないか、職員間で注意しあいながら日々取り組んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中から、入居者の今の思いを汲み取り、自己決定が出来るように働きかけています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設の日課はあるが、参加は自由であることを説明しています。日々変化する体調、気分などを把握の上、本人の希望を聞いています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝、洗面時、整髪等を行っています。手足の爪、男性の髭には注意しています。二カ月に一度美容室の訪問をお願いしています。敬老の日には、お化粧をして写真を撮ります。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日には本人の希望のメニューを聞き提供しています。畑での収穫があればメニューを変更したり、果物などは旬のものを選び季節を感じてもらっています。準備等も手伝ってもらっています。	食事は生活の中でも楽しみのひとつであり、常に季節を意識した旬の食べ物を取り入れ、普段から話題にする料理を提供したり、また食事の準備やおやつ作りに利用者が参加して、食卓が楽しい場となるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その時の体調に配慮し、食事の量を変えたり、声掛け、介助をしています。咀嚼や飲み込む力に合わせてミキサー食、刻み食にしています。水分摂取の必要性を説明し摂取してもらいます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声を掛け、介助が必要な方には、見守り声をかけて義歯、または歯を磨きます。仕上げは介助をしています。夕食後は義歯の洗浄も行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄間隔の把握を行い、随時声掛け促し、本人の意思を尊重し、できない部分を支援しています。失敗してしまった時は他の方に気付かれない様に声掛けを行っています。	排泄はトイレで行うことを基本とし、時間誘導や仕草による声掛け等々、また乳酸品等の摂取も行いながら、自然な排泄になるよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便サイクルを把握し水分は多く摂取するように努めています。毎朝ヨーグルトを提供し、便秘になりやすい方は医師の指示により薬を使い排便を調整しています。朝の体操や廊下の歩行も便秘に良いと話し運動を促しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は事前に声かけをしています。気が進まない時は時間を置き、気分を変えタイミングを見計らい支援しています。	週に4回の入浴日を設定し、一人ひとりが週に2回以上入れるよう努め、拒否者には無理強いすることなく、時間や介護者に変化をつけ、楽しいお風呂になるように、入浴支援に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居間には一人ひとりにソファがあり、横になったりテレビを見ながらとうとう出来るようになっていきます。寝具等は季節に合わせて、本人の希望に沿ったものとし、清潔に心がけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	3食ごとの袋には、処方されている病院名、薬名、用法、作用を記載して把握しやすいようにしています。薬の変更があれば連絡ノートで情報を共有しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事は好みに応じて代替品を用意し、体操や入浴後の水分も数種類の飲み物から選べるようにしています。娯楽のかかるたやゲーム、縫物、貼り絵等、一人ひとりの能力を考え負担にならず、楽しめるように考えています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	夏は、毎回希望を聞きながら散歩に出かけています。年に数回計画を立てて、法人のバスで出かけて季節を感じています。個人的な場所へは、家族に伝え協力を得ています。最近、買い物に行ける方が入居したので、今後は気分転換に買い物にも出かけようと思っています。	月に一回以上は、デイサービスのバスを活用してお出かけする他に、希望による外出にも力を入れて支援し、近所の散歩、買い物等々、個人に沿った支援になるように努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族から預り金として施設で預かっており、本人からの希望があればいつでも使えるようにしています。金銭の事で不穏な時は、預かっていることをその都度お話しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は本人の希望があれば、職員がかけ本人が変わって話をしています。手紙も希望があれば代筆します。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除は毎日行い、居室の壁は季節を感じられるように季節ごとに変えています。食卓テーブルや、玄関には季節の花を飾り、明るく生活できるようにしています。室温、湿度にも気を配り冷暖房、換気の調節も気をつけ快適に過ごせるように配慮しています。	居間兼食堂は大きくゆったりと造られており、採光にも優れた明るい居場所になっている。季節の装飾も華美を避け落ち着いた雰囲気、壁には利用者の笑顔の写真が貼りだされ、誰でもが寛げる場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには一人ひとりの居場所のソファがあり、テレビや雑誌、新聞を見たりしながらくつろいでいます。時には自ら移動し、入居者同士会話をしていることもあります。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室で使用するのは、本人が使い慣れた馴染みの物を持参するようにしています。家族の写真や貼っている方、好きなぬいぐるみを置いている方など、本人と家族にお任せしています。夜間の排泄が不安な方にはポータブルトイレを置いています。	居室には長年使い慣れた家財が持ち込まれ、家族の写真が壁に貼られたり、ぬいぐるみを近くに置いたり、自分の部屋としてゆっくりと居心地よく過ごせる工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口には名前だけでなく写真を貼り、迷わずに出入りできるようにしています。一人ひとりの身体機能を考慮し、安全に居室やトイレに移動できるように動線にも配慮しています。		